

# 1 自己評価及び外部評価票

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092300033		
法人名	長野県厚生農業協同組合連合会		
事業所名	グループホームやまゆり		
所在地	長野県諏訪郡富士見町3796-5		
自己評価作成日	平成28年11月2日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2092300033-00&amp;PrefCd=20&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2092300033-00&amp;PrefCd=20&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	長野県松本市蟻ヶ崎台24-3
訪問調査日	平成28年11月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの基本理念である『あるがままに、在るがままに・・・』を基本姿勢に、ここで暮らす入居者に対して認知症であっても豊かに暮らせるように支援していきます。日々の生活の中で、迷うとき、戸惑うときは各職員が理念に立ち戻るように努めています。日々の生活活動では、食事作り、洗濯、掃除を中心に動いていますが、入居者さんのその日の心身の状態に合わせてながら、歌や体操など楽しみのもてる余暇活動も行っております。また、入居者の希望に沿った対応が出来る様、職員と一対一で関わる時間作りや、高原病院医療福祉センターの各専門職の指導の下、リハビリや口腔ケアの実施をしております。地域との関わりの中では、ホーム近隣の住民の方々との交流を第一に考えています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日溜まりの中でコーヒーを飲みながら新聞や週刊誌を読む利用者、流れてくる懐メロを口ずさむ利用者、編み物に夢中な利用者、ユニット間の長い廊下で歩行訓練をする利用者など、思い思いに過ごす様子に理念の「あるがままに、在るがままに・・・」が理解できる。また、職員が心掛けている「余分な手助けはせず、時間が掛かっても本人の持てる力を最大限に活かせる支援」が、利用者にとっては生活のゆとりや満足となっている。さらに、利用者と職員の接するこの時間が日常的に確保されていることで、家族への最大の安心の提供ともなっているグループホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(南ユニット)		項目		項目			
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(北ユニット)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①『あるがままに、在るがままに・・・』の基本理念を職員全員が共有し、日々のケアで迷った時は、理念に立ち戻ることができている。 ②入居者の状態により、ひもときシートを使用しています。	今年度の計画に「理念に基づいた個別ケアの促進」を目標とし、日々の支援の中で重点的に取り組んでいる。 本人の世界を大切にしながら、自分らしくありのままの生活ができるよう支え、迷った時や問題が生じたときは「理念に照らし合わせてどうか」と職員皆で話し合い、統一と共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアグループの積極的な受け入れや、また、地域の方々が野菜や花の差し入れをもってきてくださる。	地域との日常的な付き合いは希薄の面があり、今年度の目標としている。その中で、通所介護での地域高齢者の受け入れ、「安心の家」での協力、認知症サポーター講座への職員の派遣、小学生との交流会などを実施し、更に地域に向けての認知症勉強会も計画中であり、新たな取り組みを含めて努力している姿がわかる。「地域の細かな情報収集とホームからの発信で繋がりを拡大していきたい」との言葉に、これからを期待したい。	地域の中で暮らし続ける利用者にとって、何よりも地域の方々の協力・良好な関係は必要であり課題と認識しているため、自治会費の納入だけでなく、事業所が一戸の家としての近所付き合いや地域の保育園や小学校などの地域資源に出かける機会を更に増やしたり、地域住民やボランティアが気軽に事業所に来られる関係作り、併せて地域への貢献など、更なる取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れをしています。 また、認知症ケア専門士等の資格取得の推進を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に4回開催し、ホームでの活動状況の報告を行っています。 また、ご家族の意見や要望をお聞きし、今後のホーム運営に活かしています。	メンバーは地域関係者・行政関係者・消防署職員、そして家族であり、開催日は家族が来訪するので利用者にとっては待ち遠しい日となっている。会議では事業所の取り組みや利用者の状況報告とともに、意見や助言をもらう機会となっている。 また、年二回は終了後の交流会も催し、穏やかな雰囲気の中で親交を深めるとともに、忌憚のない声をもらい、利用者の暮らしの質につなげている。	運営推進会議委員への認知症対応型共同生活介護の運営に関する基準を周知するなど、運営基準における開催(2ヶ月に1回)が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を中心とし、意見交換やアドバイスを頂いています。 また、年2回開催される交流会にも参加していただき、交流の場を作っています。	運営推進会議での助言や家族交流会に参加をお願いし、事業所を理解してもらえようように努めている。	日常的なかかわりが少ないこともあり、こちらから積極的にアプローチをするなどして、更に協力体制・連携が深まることが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは基本姿勢として『身体拘束』は行いません。 ただし、身の危険性に対するリスクの説明をご家族に行いながら、入居者の心身の状態を考慮し、センサーの使用等の検討を行っています。	身体拘束をしないケアを前提とし、行動・心理症状等がみられた時は「ひもときシート」を活用したりして、理解や解消に向けて討議し、拘束のない生活となるように努めている。 玄関の施錠については話し合いを重ねるものの、家族のなかでも賛否両論があり、体制を整える方向を模索している。	福祉サービスに携わる職員としての基本である、身体拘束及びセンサーや施錠の弊害について、虐待防止・権利擁護に関する制度、そして奥の深い事業所理念についての繰り返しの研修を実施するなど、職員一人ひとりが十分な理解と共通認識の下に、更に良質な支援の提供となる事を期待したい。 また、理念の「あるがままに、在るがままに・・・」をより理解したうえで、利用者の生活について運営推進会議や家族会で話し合うなどすると、理解・納得も得られやすいと思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会やサービス担当者会議の時間を使い、ミニ勉強会を開催したり、系列施設での研修会への参加をしています。 また、管理者は職員の心身のストレスに配慮し、気持ちよく働ける職場作りを目指しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、入居者に権利擁護に関する対象者はいません。 そのため、職員に対して、成年後見制度に関する勉強会は実施していません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとって行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、入居者やご家族に対して気軽に意見や要望が言えるような雰囲気作りを大切にしています。 そこで出された意見や要望については、速やかに対処できるようにしています。	利用者は一緒に暮らす中で職員や定期的な来訪の介護相談員へ、家族は運営推進会議や家族会で意見などが言えるので、その把握・集約に努めている。 そして、来訪時には気軽に話ができるように職員は心掛けており、出された内容についてはサービスに反映させている。 また、出された意見等の内容とその対応については、掲示することを検討中という。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会、リーダー会、各委員会やサービス担当者会議の場を通じたり、毎日の申し送りの時間を使って職員の気持ちや、アイデアを運営に取り入れています。	言いやすい環境を整えており、各種会議などで述べられた意見・提案から業務の見直しをして、利用者との時間を多くするなど具体例もある。 また、職員個々に年間目標を立て四カ月ごとに管理者と面談することで、進捗状況・意見・提案・悩みなどを話す機会としている。 子どもの託児先が困難な際は同伴可能で、利用者と一緒に過ごすなどの柔軟な対応もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい職場作りや、職員の希望に配慮した勤務表の作成を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の『やる気』に配慮し、外部の研修等のスキルアップの機会も作っています。 他に、院内や系列施設にて行われている研修会への参加も促し、積極的に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列事業所の老人保健施設(4箇所)、特別養護老人施設(2箇所)との職員交流や研修会への参加を積極的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の持つ世界を大切にすることを基本方針とし、初めは『直さない・正さない』事を念頭に置いています。 日々のケアの中で、本人の心身の状態や、想いをくみ取るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当ホームがご家族にとっても、『第二の家』になるような関係作りに配慮しています。 アットホームな雰囲気の中から、家族の抱える悩みや苦勞を分かち合えるよう職員一同努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の率直な声に対し、迅速に対応をすることに努めています。 また、その内容によっては、ご家族と話し合いの場を持つよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	目標としては、職員、入居者ともに相互扶助の関係を目指しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームへの来所時、推進運営会議、家族会の場を通じ、本人の日頃の状態を報告・相談しています。その際、場合によってはご家族のお力をお借りすることもあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当ホームは、ご家族・地域の方々に対し、オープンなホームを目指しております。 隣接する施設との交流や、ご家族や知人との電話や外出などで、馴染みの関係が維持できるよう支援をしています。	個人的な馴染みの人や場所との関係は家族に負う事が多く、今後の課題と認識している。 全員で街へ食事に行ったり、地域の桜や紅葉の見物、いちご狩りやぶどう狩りなどの懐かしい場所へ行ったりと、昔から変わらない景色を楽しめる時間を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの想いや、時間を尊重しています。 その中で、一人が孤立することがないように、コミュニケーションや関わり方の充実により、共に暮らしを楽しめるよう心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者やご家族の方々にとって、ここが『第二の家』になっていただけるよう努めています。 また、病院や施設のケアワーカーと連携をとることで、入院や退所時のフォローを行います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、また、迷った時はひとときシートにて、一人ひとりの想いや希望に沿った暮らしができるよう配慮しています。	基本情報で本人の生活歴、これまでの暮らしなど、きめ細かに収集するとともに、ここでの生活の意向の把握に努め、その時間を惜しみなくとるように心掛けている。 また、家族はもとより、介護相談員や傾聴ボランティアからの情報などもある。 把握した中から、これまでの生活の一部であった干し柿づくりや野沢菜漬けなど、馴染みの作業が提供されこれまでの暮らしの継続性や個人の思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の培った人生や馴染みの物や場所など、できる限り把握に努め、これらに基づいた関わり方を心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームで共に生活する中で見えてきた本人の力を活かすことで、より豊かに暮らせるよう支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心となり、現行のケアプランの進捗状況や評価を行っています。 また、リーダーが介護支援専門員の専門的立場として、その時の状況に合わせた柔軟な対応を行っています。	本人・家族の意向を踏まえ、理念に沿った自分らしくあるがままの生活で、過剰な手助けはせず、本人の持てる能力・機能が発揮できる支援計画となっている。 毎日の本人の過ごす様子、提供する支援についての丁寧な記録を基に、毎月のカンファレンスで実施状況と満足度の確認を行い、新たな支援計画へと繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録、身体状況に関する記録を中心に入居者のケアに繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者に関する必要な事柄に対し、院内のリハビリや、薬剤師、ドクター、歯科衛生士の支援を頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員さんからは、開所当初からホームの環境面に対してのご協力を頂いています。 また、地域のボランティアグループの活動の場として提供しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医を基本としながら、当ホームの経営母体である、富士見医療福祉センターの全面バックアップを受けています。	病院への受診は家族が連れて行ったり、看護師も配置されているので同行していくこともある。 また、毎月の訪問歯科診療もあり、口腔ケアにも力を入れている。 申し送りカードには利用者一人ひとりの留意点が記録されているので職員間の共有もスムーズで、受診の際には速やかな対応が可能となるシステムとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには1名の常勤看護師がおり、経営母体である富士見高原病院のバックアップを受けながら、入居者の心身状態によっては受診の検討を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当ホームの経営母体である、富士見医療福祉センターの全面バックアップを受けています。介護支援専門員が中心となって、主治医と連絡を密に取り、その入居者の方向性をご家族と相談をしながら決めていきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体機能の低下や状況の変化がみられた際は、ご家族と十分な話し合いの場を持ち、看取りや富士見医療福祉センターの関連施設とのネットワークを活かした終末期対応の検討を行っています。	家族からは入所時に、重度化・急変時は富士見高原病院と連携をとることの同意を得て、確認・共有をしている。ターミナルケアの研修も行っており、緊急時のマニュアルも看護師の指導のもとに作成されている。	グループホーム内での看取り対応の充実が期待したいところである。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当ホームで定めている『緊急時のマニュアル』に沿った対応を行っています。また、ホーム会時に、看護職員を中心とした急変時に行った対応の振り返り検討を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防法に基づき、防災マニュアルの整備、スプリンクラーの設置、年2回の防災訓練を実施しています。	防火管理者は防火・防犯の点検を毎日行っている。また、年二回避難訓練を行い、消防署の協力のもとに通報訓練・消火訓練・心肺蘇生訓練がなされている。	近隣団体との互助協定などの締結、近隣住民・家族・運営推進会議委員などの参加による避難訓練の実施、時間帯・災害内容を考慮した訓練内容の工夫など、現状のリスク分析とともに施設外の方の視点からの意見を集約したりと、検証と見直しの仕組みが更に充実されることが期待される。併せて、備品・備蓄についての整備の検討も必要であろう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、本人の想いを察するケアを心がけ、『いいよ・嫌だ』の意思をくみ取っていますが、日々の生活の中で、時と場合によっては不十分なこともあるかと思っています。	利用者の思いを尊重する丁寧な言葉がけで接したり、行動についても制限をかけない配慮を心掛けているので、一人ひとりの生活は落ち着いている。 また、新聞・広報誌などの掲載に関する個人情報や異性介助についても、利用者・家族に利用開始前に説明し了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いを察し、希望を叶えるべきケアを心がけていますが、時と場合によっては、不自由なこともあると思っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の持つ『時間の流れ』に沿った暮らしができるよう努めています。 また、生活リズムの観点から、職員主導の『時間の流れ』を求める場合も、さりげない誘導を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやお洒落にたいして特別な拘りはありませんが、化粧や毛染めなど、ご本人やご家族の希望に沿った対応は行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の生活の中で『食べたいもの』の声を拾い上げメニューに反映しています。 また、旬な食材、季節に即したメニュー、地域の郷土食も、時として取り入れます。	食事作りでは、野菜を切ったり皮むきなどの利用者ができる範囲で一緒に調理している。 また、地元野菜の差し入れも多いが畑での野菜栽培や干し柿作りなどもあり、郷土食にじかに触れるなど、食生活を楽しむ機会の提供に努めている。 メニューについては協力病院の管理栄養士の献立をもとにしているため、栄養摂取には安心感が持てる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当ホームの毎食の献立は、基本的に富士見高原病院の管理栄養士が作成したメニュー表に基づいて作られています。また、必要な入居者には、一日の食事量、水分量の観察及び記録を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは入居者全員行っております。また、月1回の関連施設の歯科衛生士の指導のもと、その方に適した口腔ケアの実施を心がけております		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には、毎食後の排泄誘導を実施していますが、入居者によってはその方の排泄パターンに即したケアの実施ができています。また、全入居者に対し羞恥心に配慮した声がけもできていると思っています。	利用者の重度化が進んでいるが、一人ひとりの排泄には時間を掛けた見守りもなされており、三分の一程度の方で排泄の自立が維持されている。それは、毎日24時間暮らしの記録や排泄チェック表が活用された、レベル低下を防ぐきめ細かな支援効果の証と思われる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員全員で入居者の排便間隔・便の性状に注意を払っています。また、必要に応じ、申し送りの時間を利用し柔軟な対応を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としていますが、希望者や発汗の多い入居者の方に対しては、その限りではありません。入浴拒否の強い入居者に対しては曜日や時間を固定せず柔軟な対応をしています。	入浴は週二回一人ずつゆっくりと実施され、普通浴と機械浴の利用が可能である。気が向かない利用者には時間や日を変えての支援や、利用者によってはシャワーや夜間対応なども行い、柔軟な支援に心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に、午睡やその日の体調に併せ、休息がとれるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤看護師の指導のもと、入居者一人ひとりの専用ケースで薬の管理を行っています。服薬時は飲み込むまでの確認を行っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の培ってきた人生を参考に、また、ホームでの暮らしの中でみえてきた『得意・不得意』を配慮して、本人の気が向くときに、入居者と相談し行っています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者一人ひとりの希望に沿う形で外出などを行いたいと思っていますが、時と場合によっては困難な時もあります。しかし、近所への散歩や買い物への同行、入居者の声から拾い上げたバスハイクなど定期的に実施しています。	家族の協力のもとでの外出支援も多く、利用者と職員が近くの店に食材などの買い物に行くこともあり、利用者は楽しみにしている。また、近くの施設に散歩に行く機会も多い。さらに、年間計画に位置付けられたお花見・いちご狩り・ブドウ狩りなどの行事や回転ずしなどの飲食店への外出もあり、多くの利用者への楽しみと日常的な外出の機会の提供に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームの運営主体の方針により、現金をホームへ置くことが難しいため、現金の扱いはしていません。ただし、欲しい物を買えるように、近所のスーパーにて口座引き落としの体制はとっています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	先方からの電話取り次ぎやお便りの返信、また、入居者の携帯電話の持ち込みにて対応をしています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者、ご家族、職員、訪問客全ての方々に『気持ちよい環境』を意識しての環境作りを行っています。	オープンキッチンの造りの居間には時計やカレンダーなどが利用者にとって見やすい場所に設置され、用意された二紙の新聞や週刊誌の閲覧も自由であり、一人ひとりに合った空間・時間が過ごせるように配慮している。 そして、家族が届けてくれた花などが飾られた自然とくつろげる空間で、各々が編み物や塗り絵をしたりしており、心地よい居場所と理解・認識していると思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる空間(居場所)や時間を持つよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内への私的持ち物に関しては、重要事項説明書で禁止されているもの意外は、ご家族、本人と相談しながら、居心地のよい居室作りを心がけています。	各部屋には整理ダンスが備わっており、それぞれが見やすい場所に大きな時計を置いたり、テレビやCDプレイヤーを持ち込んで楽しんだり、こたつを置いたり、家族写真や花を飾るなど、今までの家の延長のようなあるがままの暮らしを楽しんでいる。 また、大きなガラス窓の造りにより、部屋位置にもよるが明るい日差しが差し込み、季節の移り変わりの風景を楽しむこともできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その入居者の行動障害や身体状況に合わせ、安全面に配慮しています。 また、関連施設のリハビリ職員が月1回訪問し、各入居者に合ったリハビリや介護指導を職員に行っています		